

ユニバーサルデザインを考える。

発行日：2005.8.1

発行：総研UDPJ

とりあえず、はじめてみませんか？

— U.D7原則 —

公平な利用
利用における柔軟性
単純で直感的な利用
わかりやすい情報
間違いに対する寛大さ
身体的負担は少なく
接近や利用に際する
大きさと広さ

あくまでも原則ですので全てを満たす完璧さは求められていません。

ユニバーサルデザイン(以下U.D)と聞いて、やるべきことがすぐに思いつく人はいるでしょうか？

言葉としては聞いたことがあるけど…
バリアフリーをもっと幅広く適用したもの？
明確に答えられる人は数えるほどでしょう。
(私自身もそれほど詳しくはありません…)

理解できないから関わらないでは何も進展しません。

「考えてみましょう！取り組みましょう！U.D」

会社としても、社報「」4月号で特集が組まれていたり、一部組織での検討も行われているようですが業務として取り組むと行き詰まるが多いように感じます。まずは、気軽に声を出し合える環境でと考えます。

そこで、総研内にサークル気分でもU.Dについて語り合う“総研UDPJ”を発足させ、取り組みうという提案です。もちろん、お遊びごとで終わらせるつもりはありません。**会社へ提案できるものを作り、努力に対する報酬を得ることを最終目的**とします。また、その中で研究室の枠を越えたグループでの作業の進め方のモデルケースを創ることが出来れば今後の研究・開発にも役立つのではないかと考えます。

正直なところ、賛同して頂ける方がいるのかどうか不安なところですが、興味があるU.Dで少しでも同じ考えを持っている方々と取り組むことが出来ればと…

U.D7原則を提唱したロン・メイス氏

自身もポリオの後遺症から車イスと酸素ボンベの使用を余儀なくされた。

1941-1998
享年56才



当面、社会的には認められない行動になると思います。各人が担当している業務に極力影響が出ないように進めなければいけないので、手探り状態です。しかし、そのような状況でもコツコツと何かを積み上げて行くというプロセスは決して無駄にはならないと信じています。

説明不足の為、不透明な部分が多すぎて、何を言いたいのかわからない等あるかと思いますが少しでも興味のある方、ご意見・ご質問等のある方がいらっしゃいましたら社内メールにて までご連絡願います。

ご協力よろしくお願いします。

まずは自分自身のために考えてみる。

社報「」にも掲載されていましたが、U.Dにはロン・メイスが提唱した7原則というものが存在します。とにかくこれが幅広いのです。すべてを考慮したものをつくりあげるのは至難の業と思われれます。
(もちろん、すべてを満たす必要はありません。)

さらに、私たちの企業は製造業ですから、良いものを作って満足するだけはいけません。

“売れなければ意味がない”のです。

かなりハードル高そうです。無理です。

そこで、最初から難しく考えるのではなく、ちょっと視点を変えて**“誰かのため”**ではなく**“自分のため”**にと考えて取り組んでみるのはどうでしょうか？

今、自分自身が不自由に思っていること、困っていることを解決する為の用具、システム、環境づくりを目指すのです。

“より便利に、より楽しく”その答えがきっとU.Dです。

実は何でも良かった？

・自分自身にも、会社の存続に關してもかなりの危機感がある。でも、どうすれば…

・「悩まず行動してみよう！」の答えが今回の呼びかけなのでテーマはUDでなくても良かったのかもしれません。

・一人でやればいいじゃん！そんな声も聞こえてきそうですが私自身そんなに能力ないので無理だと思えます。それになんといっても寂しいですし…

・同じような気持ち、考えの人がたくさんいて、このような自主的プロジェクトがいくつも出来、競い合うような風土になれば楽しいだろうなと思います。

・抱える仕事が多すぎてやっぱり難しいのかなとも思いますがやってみますのでよろしくお願ひします。